

令和4年2月25日 教育委員会報告事項についての質疑応答（要旨）

（報告）

ア 令和4年度発達支援学級新設予定校について

※教育総務課就学支援担当課長から資料に基づき説明

（田中委員）小学校で発達支援学級に入っていた児童が、学区内の中学校に発達支援学級がなく、中学校に入学する際にとっても困ったとの話を聞いたことがある。そのまま学区内の中学校に通えることは、周りの環境が変わらず良いことだと思う。今後もぜひ積極的に増設をお願いしたい。

（就学支援担当課長）、お話にあったように、同一中学校区内の小学校で発達支援学級に入っていた子が、同じ学区の中学校にそのまま通うために、小中学校双方に発達支援学級が整備されているのが理想であり、整備の目安としている。子供達にとってできるだけ負担を減らせるよう、今後も検討していきたい。

（安田委員）例年より新設数が多いように感じる。和田小学校は、一度に2クラス新設するとなっているが、中ノ町小学校から移動する子がいるということか。在籍予定人数が分かれば教えて欲しい。また、市全体の方針として、発達支援学級の設置率は100%を目指すという認識でよろしいか。

（就学支援担当課長）和田小学校は2月1日時点では11人在籍予定である。8人以上になるため、2学級編制を予定している。

（安田委員）新入学の児童が多いということか。近隣の中ノ町小学校から移動してくるということか。

（教育総合支援担当課長）現在中ノ町小学校に在籍している子はほとんどそのまま残ることになると思う。新1年生8人の他に他の学年で新たに入る子、中ノ町小学校から移動する子を合わせた人数である。

（安田委員）今は普通学級にいるが、発達支援学級ができるのであればそちらにいききたいと考えている子がいるということか。

（教育総合支援担当課長）その通りである。また、発達支援学級の設置率については、必要な学校には100%整備していきたいという思いはあるが、物理的に教室が足りないことがあり、もどかしいところである。

(安田委員) 必要に応じて整備していくというのは良い方針である。今までの集中方式にも良さはあるが、設置校が増えれば学校内での交流も活発になり良いことである。ただ、教室の不足もそうだが、教員の不足も課題になってくるのではないか。例えば今回の場合、11人の専門的知識がある教員をどう配置するのか、これらもあわせて検討してもらえればと思う。

(教育総合支援担当課長) 教育総合支援センターでは今年度、葵ヶ丘小学校をモデル校として、発達支援学級の基本モデルの検証を行った。どこも一定水準の指導ができるよう標準化するため、検証をさらに進めていく。

イ 「令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」浜松市の結果(概要)について ※指導課長から資料に基づき説明

(安田委員) 1点目は、小学校が3校参加していない理由を教えてください。2点目は、全国的に運動機会が減ったことによる体力低下が明らかになっており、本市も同様であると書かれているが、これは全国平均よりも低い理由にはならないのではないかと。3点目は、結果の分析について、中2の子供達が小5の時の結果も残っていると思うため、同じ対象について小5の時と中2の時の状況を比較してはどうか。4点目は、中学2年の女子について、実技調査結果ではほとんどが全国平均を上回っているにもかかわらず、質問紙調査結果ではほとんどが全国平均を下回っている。質問紙調査結果が高ければ、これに比例して実技調査結果も上がるという訳ではないのだと思った。この結果をどう捉えるか。

(指導課長) 1点目の不参加の理由は、小規模校において児童数が1人のため参加を見合わせた学校や、もともと5年生がいない等である。2点目、3点目の分析は、いただいたアドバイスを含め、今後工夫していきたいと思う。去年は調査できていないが、それ以前の調査結果は残っているため経年変化が見える形で表現していきたい。4点目の分析は、全国平均を下回ったものが多いものの、ほぼ全国平均と同じである。明確な理由は見つけれなかったが、小5時の記録からの変化を追うことで、理由が明らかになるかもしれない。

(鈴木委員) 私は運動は好きだが授業は嫌いだったため、体育の授業が楽しいかという質問紙調査の結果が高く驚いた。

(指導課長) 現在は、運動やスポーツに親しむことや運動好きの子を育てることが学習指導要領で一番に謳われている。技能の獲得と同時に、できないことでもできた部分に注目して教員が支援する等、達成感や充実感が得られるように、体育の授業は工夫されている。

(安田委員) 私の学生時代もやたら走っているだけだとか体育の授業が楽しかった記憶はあまりないが、今はダンスにヒップホップを取入れたり、球技も工夫されている。次の時間割が体育だと子供達が喜んで出ていくから、楽しいのだと思う。

(鈴木委員) 数学の授業が楽しいかというアンケートもとっているのか。

(指導課長) 全国学力学習状況調査で行っているが、体育よりは数値が低かった気がする。

(田中委員) 自身の子供の印象だが、中学生になると女性特有の体型変化があり、運動部に入っている子とそうでない子の能力の差は歴然である。浜松は部活動が活発な印象を受けるため、相対的に数値が高いのは納得がいくが、今後地域クラブに移行することにより、これらの結果にどのような変化が現れるのか、危惧している。今後も分析を進めていきたい。

(指導課長) 休日の部活動の地域クラブ化については、段階的に行うよう検討委員会にて議論しているところである。指摘の通り、体力の低下についても話が出ている。

(黒柳委員) 小5の数値が全国平均を下回っているものが多く、中2になった際にどうなっているか結果を追っていく必要があると思う。毎年握力が下がっており、蛇口等握る機会が減っているためと考えられる。ソフトボール投げの結果もそれに比例しているように見受けられるため、数値が上がるよう検討していただきたい。また、投力向上の参考資料にはどういったことが書かれているのか教えていただきたい。

(指導課) 投力向上資料では、ボールの持ち方を写真で示し、投げる時には目線を高くして斜め45度に投げるよう、分解写真で示している。女子の結果が若干良くなったが、資料を配布したことによるものかは検証していないため、今後活用していく上での課題と考える。また、毎年自分の学校の弱みや強みの分析を行っており、弱い部分はどう改善していくか体育教師を中心に、来年度の取組を決定している。握力等については、体育等でぶら下がる時間を設けたり、ペットボトルを自分で開けるようにする等、体育の授業や普段の生活で養えるよう、今後働きかけていきたい。

(神谷委員) 最近の研究で、運動能力と学力と所得に相対関係があると言われていたが、昔のように野原を駆け回って自由に遊ぶというよりは、幼い頃から英才教育のようにスポーツクラブに入れて運動をさせるような時代になってきたのかなと思う。今回は運動の記録だけだが、様々なデータと結び付け、推移を追っていく必要があるのではないかと。今回の結果と結びつくデータがあれば、別の機会に見せていただきたい。

(指導課) 経済格差との因果関係は把握していないが、過去数年の資料を見て、中学生の

記録は、部活動の影響がかなり大きいと感じている。先ほど話が出たように、部活動が地域クラブへ移行した際に、経済格差等によって地域クラブに参加できる、できないが生じないよう、仕組み作りに取り組んでいきたい。

(非公開)

- ウ 令和4年度浜松市立小学校及び中学校の学級編制の基準について
- エ 令和4年度浜松市立小学校及び中学校の学級編制基準日について